The Society for Nursing Science and Engineering

看護理工学会に入りませんか？

看護と理工学の連携を強力に支援します！

第4期理事長
須釜 淳子

1 看護学系と理工学系の臨床家と研究者の出会いを推進

- 学術集会におけるポスターセッションでのフランクな交流
- ものづくり体験ワークショップなどによる手を動かしての交流

2 看護学系と理工学系の双方の障壁を減らすためのお手伝い

- 教育セミナーなどを通じた看護・理工学双方の基礎知識の提供
- 学会誌へのキーメッセージを通じたシーズやニーズなどの掲載による情報共有

看護学系
（臨床家・研究者）

地方の単科大学に所属しているので自分のできる研究では本質にたどり着けていないもどかしさを感じておりました。そんな時、看護系と理工学の研究者の方がコラボしている研究発表を聞いて「これだ！！」と感動しました。

理工学系
（研究者・企業）

現場や研究機関にいる看護の専門家の生の意見がもらえてよかったし、臨床での利用や別の利用アイデアを議論できて興味深かったです。

連携事例1
ものづくり体験ワークショップが契機で研究者の協働がはじまり、東京電機大の理工学系と東北大の看護学系の研究者の共同研究で英語論文掲載に至った例

連携事例2
別分野で類似の研究をそれぞれの立場から研究中の看護研究者と工学研究者が学術集会で出会い、学術研究WGを始めることになった

連携事例3
ビッグデータのAI解析を行いたい看護研究者が医療情報学や工学の研究者との共同により解析を行い、看護系トップジャーナル（IF=6.6）に掲載された

こんな出会いがあるかも？

医療現場の困りごとを技術で解決したい

類似研究なら一緒に進めて大規模にしたい

看護学系
（臨床家・研究者）

×

理工学系
（研究者・企業）

臨床のデータを取得し疫学研究をしたい

医療現場の人の意見を機器に反映したい

こんな研究発表ができる！

- 看護現場における機器ニーズ
- 看護機器におけるトラブル事例
- 新規な計測機器に基づく看護研究
- 看護機器の開発・改良
- 施設における看護管理最適化
- 看護研究用の情報システム
- 臨床での計測による新たなエビデンス開発
- 非侵襲機器による新規アセスメント技術
- 看護学における基礎研究のためのシステム
- 新しい機器、技術の臨床現場への導入事例

Features of the Society for Nursing Science and Engineering

学会の特徴

POINT1 学術的な利点

看護理工学会誌

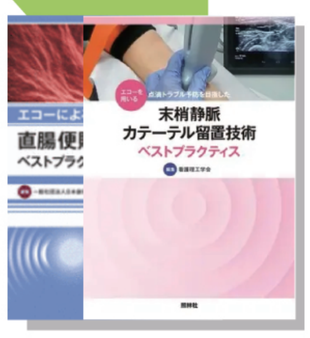
- J-STAGEへ掲載（オープンアクセス）
- 医中誌にインデックス
- 年間30本程度掲載（英文OK）
- 迅速審査あり
- 優秀賞や若手奨励賞あり
- 看護系と理工学系の査読コメント
- 他分野でも分かるキーメッセージ

※研究のきっかけ・モチベーションや貢献、ニーズやシーズについての解説付き

学術集会

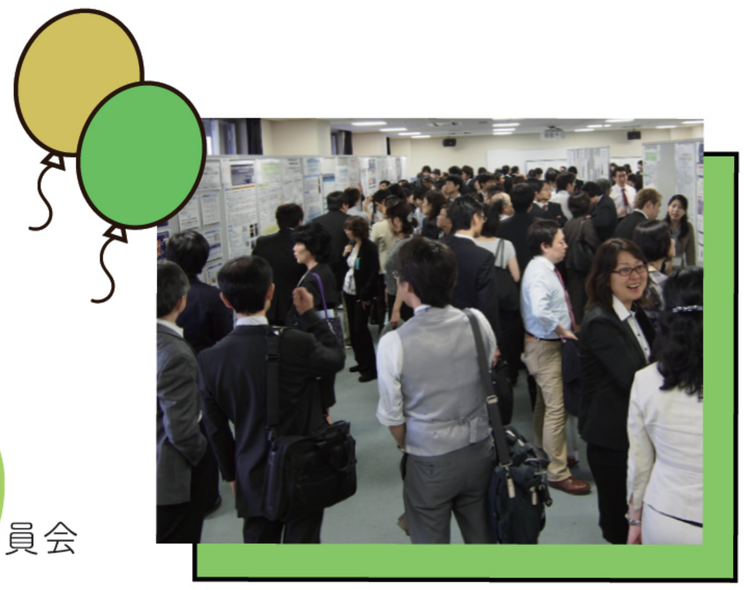
- 毎年1回開催（例年10月頃開催）
- 優秀賞の表彰あり
- 口頭発表＋ポスター発表
- ポスター発表での活発な意見交換

- 末梢静脈カテーテル留置技術についてのベストプラクティスの発刊
- エコーによる直腸便貯留観察ベストプラクティスの発刊



他学会と連携した看護ケアエビデンスの取りまとめ

POINT2 教育・研究などのサポート



教育セミナー（会員向けオンデマンド配信含む）

- 看護師が利用する医療機器の原理
- 救急看護等様々な看護領域の説明
- AI・機械学習、XR等の最新技術やその看護応用
- 生物学的な知識や看護研究への活用方法

ハンズオン

- 超音波検査機器などの活用
- AI技術などのプログラミング

研究へのサポート

- 学術研究WGへの資金サポート等
- 研究のための倫理委員会
- ケアエビデンス構築のためのWG構築

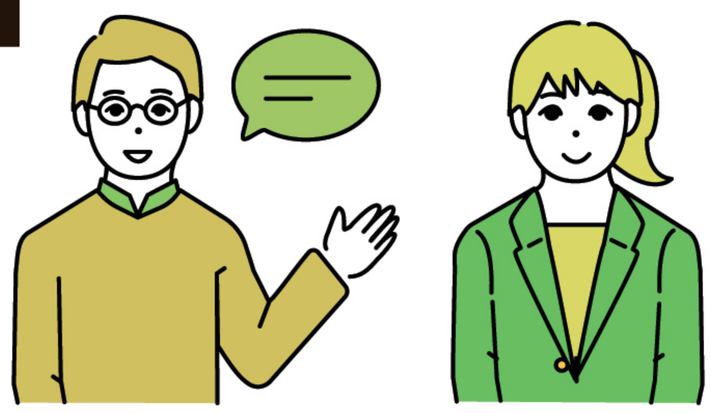
POINT3 学際的連携・異分野融合のサポート

看護学系・理工学系研究者の連携

- ものづくり体験ワークショップの開催
  年1回、看護師、研究者（看護学系・理工学系）、企業の方が共同でプロトタイプを作るワークショップの開催
- 学術集会における交流会の開催

他の学術団体との連携実績あり

- 日本医療情報学会などの医療系学会
- 生体医工学会などの医工学系学会
- 日本薬理学会などの薬学系学会など



学会情報

正会員：488名　学生会員：55名　賛助会員：20社　名誉会員：6名　計572名（2022年5月31日現在／2013年設立）

※正会員のうち看護学系は約７割で理工学系は約３割、また、研究者は約８割で臨床家や企業の方も約２割いらっしゃいます。

・学会目的

看護理工学会は、看護学、医学、工学・理学とその周辺領域において、それぞれの専門領域を深めつつ互いに協調連携することで、新たな学術分野、ケアに貢献する新技術の創成、それらにもとづく社会への貢献を目的とし、その目的を達するために次の事業を行います.

- 学会・学術集会、講演会、研究会、講習会、展示会、見学会等の開催
- 機関誌、その他刊行物の発行
- 広くケアの発展向上および看護理工学の体系化に関わる調査、研究及びその褒賞・学術・技術の発展に向けた人材育成
- 社会貢献に向けた啓蒙普及の推進・機器の規格化・標準化ならびに資格制度に関する事業
- 内外の関連学術団体との連絡及び提携

運営事務局

〒169-0072
東京都新宿区大久保２丁目４番地12号　新宿ラムダックスビル
(株)春恒社 学会事業部内　看護理工学会事務局
TEL.(03)5291-6231　FAX.(03)5291-2176　e-mail:nse-society@umin.ac.jp

看護理工学会
The Society for Nursing Science and Engineering

活動の詳細はウェブサイトにて

http://nse.umin.jp/index.html